

美郷町の社会教育の取組

「“地域づくり”は“人づくり”から」をモットーに美郷町の社会教育は幅広い分野で地域の実態に応じた様々な取組を行っています。

3月12日（月）にみさと館で、美郷町の社会教育実践発表交流会を行いました。公民館職員、社会教育委員等の町内の社会教育関係者をはじめ、町議会議員の皆様、町行政関係者、県の社会教育、地域振興関係者など50名の参加者で社会教育の取組の成果や課題を共有しました。

【“教育”の3領域】

①学校教育 ②家庭教育

③社会教育

学校教育・家庭教育以外の
広く社会で行われる組織的な教育
※学校教育・家庭教育への支援も
社会教育の役割です。



(異世代交流)

「子ども達と高齢者が力をあわせて活動に取り組んでいます」
君谷公民館主事 岩谷美由紀



(ズンバ教室)

「子どもから大人まで、楽しみながら学び・体験し・交流してほしい」
沢谷公民館副館長 渡邊泰文



(星空観察)

「ふるさとの自然の素晴らしさを再認識してほしいと思っています」
都賀行公民館主事 井田富枝



(避難所体験)

「意見を言い合える、そして、みんながつながれる地域をつくりたい」
都賀公民館主事 宮岡美佐子



(ドラム缶風呂)

「大人になっても比之宮を愛し、比之宮の良さを受け継いでもらいたい」
比之宮公民館主事 桐場陽子



(養蜂の学習)

「学校支援の取組の充実によって、地域の力が高まると信じています」
学校支援地域コーディネーター 森下奈保子



(ツリーテラス)

「学校ではできないような挑戦の機会を放課後の子ども達に提供したい」
放課後子どもプランコーディネーター 石田麻希

<社会教育への期待（参加者の声）>

- ・ 地域との交流の楽しさを次世代にも伝えて欲しい。
- ・ 体験活動がこんなに充実した町をアピールしていくべき。
- ・ 地域に愛着を持ってもらえる人づくりの実践が素晴らしかった。
- ・ 人づくりは、より良い地域づくりにつながる大切なことだと改めて考えさせられました。



平成29年度

美郷町教育委員会だより

第2号 平成30年3月16日発行

こんにちは、美郷町教育委員会です。29年度もいろいろな場所やカタチで「学校教育」「社会教育」に取り組みました。様々な学びによって、人も地域も元気にしたいと思っています。

30年度も、「みさとの教育」についてご理解・ご協力よろしくお願いします。

平成30年度から学校はココが変わります

英語教育の必修化！！

平成20年度から5・6年生を対象に外国語活動として英語の学習が始まっていますが、平成32年度より3・4年生でも英語の学習が始まるとともに、5・6年生では英語が教科化されます。美郷町ではこれに先行して、来年度より3・4年生で年間35時間、5・6年生で年間70時間の英語の授業を実施する予定です。また、その動きを見据え、今年度よりALT（外国語指導助手）を1名から2名に増員し、小中学校の英語教育が充実したものになるよう整備しました。



ICT教育！ ～プログラミング教育が始まります～



来年度より人型ロボットを各校2台導入し、プログラミング教育を実施します（平成32年度より必修化）。プログラミング教育で求められている「体験をしながら身につける学習」に、一役も二役もかきそうです。もしかしたら、そのロボットが玄関で皆さんを出迎えるかもしれませんね。

※ICTとは・・・コンピュータやインターネット等の情報通信技術のこと。

邑智中学校に通級指導教室が新設！！

通級指導教室は通常の教育の場に通いながら、何らかの個別の支援や指導を必要としているお子さんのための教室です。自分のホッとできる居場所として、そして美郷町の子ども達のために大きな役割を担っています。

そんな通級指導教室が、現在ある邑智小学校に加えて、来年度、邑智中学校に新設されます。中学校に新設されることでたくさんのお子さん達にきめ細やかな支援を行うことができます。それに加え、小学校から中学校、中学校から高校へのつながりもより深まるなど、新設により非常に高い教育効果が期待できます。

《通級を利用している児童生徒・保護者の声》

<児童生徒の声>

- ・ 友達に思いを伝えるのが苦手でけんかになることがあります。そんな時どうすればいいのか一緒に考えてもらいます。
- ・ 将来や今の自分について考えます。夢をかなえるための準備をしています。

<保護者の声>

- ・ ありのままの自分を認めてくれるところ、そして何かあったら子どもも大人も相談できる場所です。
- ・ 通級が励み、リズムになっています。
- ・ 通級という空間・人があることが、どんなに心強いのか。味方が近くにいるという安心感があります。

祝！ いわみぎんざんかいどう くにしせきしていけってい 石見銀山街道 国史跡指定決定！

美郷町を通る石見銀山街道のうち、やなしお道（別府～湯抱）の一部と森原古道（酒谷）、あわせて約6kmの道が国の史跡として指定になりました。
石見銀山街道とはどんな道なのでしょうか、指定になったやなしお道、森原古道はどんな道なのでしょうか。

1. 道は続くよ尾道へ

石見銀山街道を整備

- ◎大森～尾道 年に1度、約130kmを3泊4日で運んでた。・・・土橋やジグザグ道、がけ道も。
- ◎背中に銀を積んだ、牛の隊列300頭。・・・400人の大行列
- ◎てくてく歩くやなしお道・森原古道。・・・村で分担：助郷制度
- ◎目指せ尾道。みんなで運ぶ銀の旅。

※助郷制度とは・・・各村に人と牛の数が割り当てられており、主に銀の輸送や道の補修整備を中心に労働力の提供が義務付けられていた。

1泊目：美郷町の九日市
2泊目：三次、3泊目：甲山

役人は「本陣」に宿泊。
地元民は銀を「寝ずの番」

尾道の港で
船につみかえ、
いざ、大阪へ！

江戸版「瀬戸内海クルージング」
8日間の旅？

到着！大阪「御金蔵」

国内：貨幣として利用
国外：輸出品目として販売

経済の安定・繁栄の土台

時は江戸時代

幕府が石見銀山の銀を独占!!
⇒大阪の御金蔵へ納めよ!



さて、どうやって運ぼうかのお？

石見銀山街道の歴史的な価値：江戸幕府経済の安定を支えた道

2. やなしお道のここがすごい！

小松地から湯抱までの約6.6kmの道のりで、石見銀山から尾道までの間に今なお江戸時代の面影を残す貴重な遺構です。

また、版築工法や土橋等、当時の土木技術を知ることができます。

◎版築工法

真砂土と粘土を交互に層状に突き固める工法。コンクリートのように固い路盤が特徴です。古くから土堀や地盤改良などに使われてきました。街道に用いられていることが平成12年の調査により明らかになりました。

◎土橋（どばし）

谷間に盛土をして作られた橋のような道です。これにより上り下りが激しい道が平らになり、銀輸送における労力が軽減されます。やなしお道には7箇所土橋があり、全長50mもの大規模なものがあります。

◎やなしお坂

急な下り坂の労力を軽減するため、ジグザグの道がつけられています。



土橋



版築工法

3. 森原古道のここがすごい！

酒谷にある、約200mの道のりで伊能忠敬の測量図にも示されている道です。

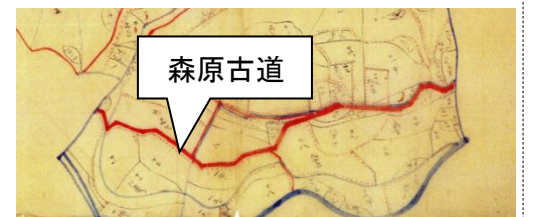
平成21年から22年にかけて発掘調査を行いました。調査の結果、それまで約1mであった道を約2mの幅に整備した形跡を確認することができました。江戸時代の重要な輸送路として大がかりな街道整備が行われていたことが分かりました。

この時、現地は圃場整備の計画がありましたが銀山街道であることが確認され保存することになりました

現在は史跡公園として、地元の方によりシャクヤクや桜の木が植えられ、憩いの場となっています。



発掘で明らかになった街道の状況



酒谷村切図 森原古道付近
(個人蔵)